シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「山岳と共生する人の営みと建築」

京都府立大学大学院
生命環境科学研究科
准教授　奥矢 恵

■自己紹介

住居・建築設計、展示デザインに長らく従事していましたが、研究を志すようになり、現在は大学で住居・建築をはじめとする生活環境のデザインを教えつつ、研究に勤しんでいます。

■活動内容

私の研究の原点は登山という趣味にあります。山小屋という建築物には、厳しい山岳環境下で登山者の生命を守るための小屋主の経験や智恵が織り込まれていることに気付き、これらを明らかにして記録したいと考えるようになりました。現在、こうした山小屋の原初的な姿や変容の過程、具体的な建築像、また山岳環境への適応策について研究しています。

しかし、かつて「山小屋」とは、伐木や運材、炭焼き、狩猟などの山稼業とこれに伴う生活のための小屋を指す言葉でした。例えば、中部森林管理局蔵の『木曽式伐木運材図会』にも描かれる杣の小屋は、伐木や造材後の樹皮や枝葉を余すことなく使用して造られた、数ヶ月での解体を前提とする簡易なものでした。こうした山稼業のための小屋は登拝者や登山者に利用されるようになっていくのですが、木曽の御嶽山では現在も、杣小屋と同じ間取りを持つ複数の山小屋が営業を続けています。

御嶽山の山小屋（黒沢口七合目 行場山荘）

そのような訳で、かつて伐木や運材を営んだ村々の民家にも興味を持つようになり、山間の林業集落で板材を多用した民家の研究も行っています。これらの民家もやはり簡素な造りで、木材の加工に長けた人々の住まいだからこその特徴がみられます。周辺の森林と一体化した板造りの民家がつくり出す集落景観は、現在の雑多な都市にはない美しさを放っています。

雨量の多い林業集落にみられる
板材を多用する民家

■メッセージ

林業集落に限ったことではありませんが、山岳や森林などの自然環境と共に生きてきた人々の暮らし、その器となった建築物は失われつつあります。調査・研究を通じてその魅力を学生に伝え、共に詳細を記録し、民家や集落の再生・活用の提案につなげられるよう努めたいと考え、微力ながら実践しています。

学生との民家調査の一コマ

○連絡先
〒六〇六－八五二二
京都市左京区下鴨半木町一－五
https://okuya-lab.net